

学校評価の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は平成27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。令和4年度は国立病院機構近畿グループ5校の副学校長・教育主事・教員による学校相互評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

学校評価（助産学科）総評結果

前年度の評価をもとに改善に取り組み、令和4年度の自己点検・自己評価を行った。学校相互評価結果は評価項目について「3.十分満たしている」と「2.満たしている」の評価であった。今年度の取り組みは次の4点である。

1. 教育課程：今年度から改正カリキュラムの運用を開始した。強化して取り組んでいる学校独自の臨床推論プログラム、シミュレーション教育、OSCE等を継続的に進めている。またCOVID-19の影響を最小限にし、可能な限り対面授業を実施して教育の質を確保した。実習指導者と連携をとり、前年度から活用している分娩介助のルーブリック評価表を活用して、学生の到達度をパフォーマンスにより客観的、段階的に評価できるようにしている。ピアチェックによる看護技術の自主的な練習への支援を行ったことで、技術力の向上に繋がった。
2. ICTを活用して国立病院機構3校の合同教育システムを構築して活用している。ICTを活用して3校での教材共有や国家試験対策などを行った。今年度は研究授業を実施し、教員相互の学びを得ることができたと同時に国立病院機構所属の助産学科の質の向上につながっている。
3. 対面授業の増加によるデータ保存業務の減少、業務改善チャレンジシートを用いた教務助手や事務助手へタスクシフトにより、超過勤務が減少している。
4. 教員の研究活動：継続的に研究に取り組み、教員は研究発表を行うなどの成果を挙げた。この評価結果を活かし、さらなる教育の質の確保と教育環境の充実が図れるよう取り組んでいく。

評価項目	評価の視点	項目	R4年度		R3年度
			自己評価	相互評価	自己評価
I 教育理念・目的	学校の教育理念・教育目的は明文化され、教職員および学生に浸透し、卒業時点での学生像に反映されているかについて評価します。	6項目	3.0	2.8	3.0
II 教育目標	教育理念・目的・教育目標の一貫性および卒業教育との継続性を考慮した目標設定であり、教員・学生が共有できているかについて評価します。	6項目	2.8	2.8	3.0
III 教育課程	教育課程の編成について独自性、整合性、ニーズへの対応などの観点から科目が挙げられているか、講義・実習の内容に妥当性があり、教育の質向上のために工夫し計画的に進められているかについて評価します。	26項目	3.0	3.0	3.0
IV 教育課程評価	自己および学生による授業評価の実施と改善の取り組み状況について評価します。	6項目	3.0	3.0	3.0
V 学校組織	学校の組織体制について人員配置および意思決定システムが適正であるかと防災対策や個人情報保護について評価します。	9項目	3.0	3.0	3.0
VI 入学生の受け入れ	自校の教育理念に基づいた入学選抜試験の適正な運用と実施状況の分析、検証状況について評価します。	5項目	3.0	3.0	3.0
VII 学校生活支援	学生の生活支援体制について、健康管理、プライバシー保持、自治会活動、関係者との調整の観点から整備されているかについて評価します。	15項目	3.0	3.0	3.0
VIII 卒業生の進路	卒業時の到達状況、進路、国家試験の合格状況を分析し、教育活動に生かしているかについて評価します。	7項目	3.0	3.0	3.0
IX 教員の研究活動	教員の研究活動の実施状況および支援体制について評価します。	4項目	3.0	3.0	2.8
X 社会への貢献・公開講座	公開講座やボランティア等、地域社会のニーズをふまえた社会貢献、近隣関連施設との情報交換等、地域との交流状況、また、国際的視野をふまえた教育体制等について評価します。	7項目	2.9	2.7	3.0
X I 教育環境	施設設備などの学習環境の整備状況について評価します。	7項目	3.0	2.9	3.0
X II 学校経営・管理過程	教育活動について将来構想をもとに計画的に管理・運営しているかについて評価します。	7項目	3.0	3.0	3.0
X III 学校評価システム	自己点検・自己評価システムの整備状況や運用について評価します。	5項目	3.0	3.0	3.0
全体平均			3.0	2.9	3.0

